
雨と財布と女の子

飴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雨と財布と女の子

【Nコード】

N9235M

【作者名】

飴

【あらすじ】

財布を落としたくそ忌々しい一日

「くそっ！くそっ！なんでないんだよ！！」

大雨の中必死に駆け回ったが俺の財布はどこにも落ちていない。無論会社の中、通った道中は全て何回も探した。

「もう、だめかもしれねーな」

全身ずぶ濡れになりながら探したが、一向に見つからなかった。

「くそ忙しい時にいつも嫌な事が起こりやがるな……。とりあえず警察に届け出を出すか」

近場の交番のドアを開けると「どうしました！？」と驚いた顔で全身ずぶ濡れの理由を聞かれた。

「では、紛失届を書いていただきます。それと、これでちょっと拭いたほうがいいですよ」

意外にもその警察官は優しくしてくれた。こういう時のちょっとした親切は心に染みるものだ。

紛失届を書いていると、突然背後のドアが開いた。

「あ、あの！これ落ちてたんですけど」

振り返ると、びしょ濡れの女の子が一人、財布を持っていた。

まさか

確認させてもらうと、まさしくおれの財布だった。

25歳前後に見えるその女の子は、にっこり微笑んで「よかったですね」と言ってくれた。

「ありがとう！もう半分諦めていたところだったよ」

しかも女の子は俺のタイプにばっちり当てはまっていた。

その場で遠慮する彼女に財布の中身の1割を受け渡し、帰ることにした。

「あの、もし何かあったら困るので、連絡先の交換しませんか？」
まさか女の子のほうからこんな嬉しい事を言ってくれるとは思っ

てもいなかった。くそ忌々しい事の連続だったが、終わりよければ
全て良し・・・だな。

(後書き)

半ノンフィクションです(笑)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9235m/>

雨と財布と女の子

2010年10月15日23時45分発行